

バンコック日本語センターにおける 教員研修プログラムの開発

生 田 守*

キーワード：バンコック日本語センター、日本語教育研修会、日本語教師のための日本語講座、コンサルティング、教員研修シラバス

要 旨

タイ国における日本語教育は、年々規模を拡大し、各機関では学習者の増加に伴い、教員不足に悩むとともに教員のレベルアップに対する関心が高まってきた。

このような状況の中、国際交流基金バンコック日本語センターが設立され、さまざまな便宜供与が企図されているが、本稿では、研修会・コンサルティング・教師向け日本語講座等の活動状況を一瞥し、当センターで開発を企てている教員研修プログラムの実際、今後の展望について論じる。

一年に2回行う予定の「日本語教育研修会」は、研修プログラムの中心をなすものであり、一週間にわたり集中的に講義が行われる。

「日本語教師のための日本語講座」は、タイ人日本語教師の日本語運用力を高め、授業を活性化させる目的で開設された。

その他、コンサルティングや各地のセミナーで吸収した問題点からのフィードバックも含め、研修会・日本語講座を通じ、教員研修プログラムを開発していく予定である。

研修内容についても、日本語教育に関する知識をいかに実際の授業に活かすかという観点に立っての教員研修シラバスの開発が急務である。

これらの活動の結果、指導法に悩むタイ人日本語教師に躍進のきっかけを提供できればと願っている。

はじめに

タイ国における日本語教育は年々規模を拡大し、1989年11月の調査では学習者は13機関で2万9千余名を数え、講師数も612名(内日本人171名)を数えるに至った。(国際交流基金バンコック駐在員事務所調べ)

学習者増加に伴い、各機関では日本語教師の増員および質の向上に対する関心が高まって来た。しかし、学習者の増加に見合う教員の増加は簡単には望めず、英語科・仏語科の講師が日本

* IKUTA Mamoru: 国際交流基金バンコック日本語センター主任教育担当講師。

語を兼任するケース等もあり、その結果、日本語および日本語教育に関する知識が浅い教師を量産して来た感がある。

また、日本で日本語および日本語教育に関して学んだ経験もあり、比較的教育歴の長い教師間でも「いかによく教えるか」についての関心は高く、タマサート大学東アジア研究所日本研究センターでは、1987年より年一度1日ないし2日にわたって日本語セミナーを開催し、数多くの日本人およびタイ人の日本語教育関係者が参加している。

一方1988年には、日本語の基礎力が不十分なタイ人日本語教師に対する日本語指導および日本語教育方法に関する共同研究を目的に、日本人・タイ人の教師が機関を越え「日本語研究サークル」を発足し、1990年に会名を「タイ国日本語研究会」と変え、現在に至っている。活動内容は月例会(91年8月現在34回)と年次セミナー(3回)で、前者は月一回日本語学・教授法・実践報告などについて会員が順次発表し、後者は年一回テーマ毎に分科会を組み、2日間にわたって行われる¹。

このような状況の中で、1991年6月国際交流基金バンコック日本語センターが設立され、タイ国内外の情報交流促進、日本語教育に関する研修会・コンサルティングの実施、図書・教材ライブラリーの運営、各種援助事業が行われている。

本稿では、バンコック日本語センターで行っている教員研修プログラムについて報告を行うとともに、今後の展望・開発の方向についても論じてみたい。

1. バンコック日本語センターにおける研修会・コンサルティング活動状況

バンコック日本語センターにおける日本語教師の研修およびコンサルティング事業を一通り見渡した上で、教員研修プログラムの実際と今後の展望について考察してみたい。

1-1. コンサルティング事業

タイ国内の日本語教育機関を訪問し、日本語講座運営上および教授上の問題点や現地事情を聞いたり、新しい教材等を紹介している。現在、バンコックのほかチェンマイ、プーケット、ハジャイ、ピサヌローク、コンケン、ナコンパトム、アユタヤ等、延べ40機関(大学16、教員大学4、高等学校7、高等専門学校5、その他8)を訪問した。

その他、センターへの来訪者も7件あり、教材作成、教授法、セミナーの実施等について相談を受けた。

バンコック以外の地方へはなるべくこちらから出向き、センターにおいては常時相談を受けら

¹ 現在の会員数は86名(1991年9月現在)。具体的な活動状況に関しては、「日本語教育通信」第5号(国際交流基金日本語国際センター、1991年11月発行)中の、門沢健也氏による紹介記事が詳しい。

れる体制をとり、「現場の声」をすくい上げるべく努めている。ここですくい上げられた問題が、他の研修事業・援助事業へのフィードバックに活かされることはいうまでもない。

1-2. 各地セミナーへの出張講義

依頼に応じ、タイ国内の各種セミナーに出向き、日本語教育に関する講義・ワークショップを行うサービス。今年度は、ナコンラチャシマ教員大学での「90年代の語学教育の潮流」というセミナー²および元留学生協会の研修旅行において、「基礎日本語教授法一語彙・文型の呈示」という題で講義を行った。

1-3. 「日本語教師のための日本語講座」

タイ人日本語教師のために開講された日本語講座で、2か月(週一回2時間)を1コースとして、年に2ないし3コース開講する予定である。今年度は、8・9月に31名の参加があった³。

この講座の目的は、日本語教師の日本語運用力をのばすことと、実際に授業に参加することにより教授力を高めるということにある。

今回は、参加者のレベルを2つにわけ、運用力の比較的低いグループには、タイ人と日本人の教師二人に組んでもらい、タイ人教師が導入・説明をして日本人教師が練習するという形式をとり、上級グループは日本人教師が担当した。

今回の内容は、会話の授業が中心で、文法・語法などことばの「構造」的な側面より、場面・状況での使い方—ことばの「機能」的な側面を重点的に学習した。適切な場面で、適切な表現をするにあたっての談話レベルでの方略・手順すなわち広義の待遇表現の習得を目指した。

テキストは先行書の中に適当なものを見出せなかったので、自作のものを使用した。

内容は以下の通り。

第一課 あいさつ

いつものあいさつ・久しぶりのあいさつ・お礼・はじめてのあいさつ・慣用表現
談話練習・ロールプレイ「師弟の再会」

第二課 依頼する

依頼の表現・依頼を受ける・依頼を断る・依頼の手順・まとめ
談話練習・ロールプレイ「シンポジウムへの参加依頼」

第三課 誘う

誘いの表現・誘いを受ける・迷う・誘いを断る・前に出た話を断る
談話練習(再度誘う)・ロールプレイ「課内ピクニックに誘う」

² The United Colleges Language Centre of Isan-Tai, Nakhon Ratchasima の主催で1991年8月27日から29日にかけて行われ、英語科・仏語科・日本語科の講師が50数名講師として参加した。

³ バンコックおよび近郊の日本語教育機関19機関(大学6・教員大学3・高等学校10・高等専門4・他機関8)からの参加。

第四課 不満を表す

不満の表現・苦情への対応・まとめ・談話練習(人間関係による違い)
(トラブルが生じた時)(妥協点を探す)・ロールプレイ「新学期の時間割」

第五課 考えを表す

提案する・相手の考えを聞く・質問に答えて考えを述べる
相手の考えに同意する・相手の考えに反対する
談話練習(老人に席を譲るか)・発話練習

今回は、特にコミュニケーション能力ないシインターアクション能力⁴を高める目的で、相手との関係を損ねないでいかに自分の意志を伝えるか、つまり円滑なコミュニケーションができるかをテーマとした。

レッスンは、概念を中心とするシラバス⁵にもとづいて構成されている。相手に伝えたいことが「不満」であれば、その時にどのような表現をとればよいのかを、文レベル(前置き、文末表現などことばのかたち)、談話レベル(話の組み立て方、たとえば、不満を言う前のあいさつ、不満を述べる順序、話の切上げ方など話の手順)にわたって考察し、不満が出る役割・状況を設定して、カードを使ったロールプレイ練習⁶を行った。

本講座に関する授業内容詳細、コースの評価などの分析については、稿を改めて論じてみたい。

1-4. 「日本語教育研修会」

各教育機関の休暇期間を利用し、日本語センターでは、タイ国内からタイ人教師を招き、一週間にわたる日本語教育集中セミナーを開講している。今年度は、5月に第一回目の研修会を行い、10月にも第二回目を予定している。

コースデザインにあたっては、コンサルティング・各種セミナーでくみ上げた問題点、アンケ

⁴ インターアクション能力については以下の文献を参照。

ネウストプニー, J. V. (1982) 『外国人とのコミュニケーション』, 岩波書店。

尾崎明人, ネウストプニー, J. V. (1986) 「インターアクションのための日本語教育」『日本語教育』45号。

ネウストプニー, J. V. (1991) 「新しい日本語教育のために」『世界の日本語教育』第1号。

⁵ 概念を中心とするシラバスについては、以下の書を参照。

D. A. ウィルキンズ (1976) 『ノーショナル・シラバス—概念を中心とする外国語教授法』, 島岡丘訳注, 桐原書店, 1984。

⁶ ロールプレイ練習については、以下の文献に詳しい。

バルダン田中他 (1989) 『コミュニケーション重視の学習活動 2 ロールプレイとシミュレーション』, 凡人社。

岡崎志津子他 (1987, 1988) 『ロールプレイで学ぶ会話』(1)・(2), 凡人社。

K・ジョンソン/K・モロウ編 (1981) 『コミュニケーション・アプローチと英語教育』, 小笠原八重訳, 桐原書店, 1984。

高橋紘子 (1990) 「コミュニケーション・アプローチとロールプレイ」『東北大学日本語教育研究論集』第5号。

ートなどを参考としている。

教員の参加にあたっては、大学省・教育省・所属機関の協力を得、地方からの参加者には交通費・宿泊費を負担するなど、できるだけ容易に参加できるような便宜が図られている。本研修会は、日本語センターにおける教員研修プログラムの核をなすものなので次章において詳しく論じたい。

2. 第1回「日本語教育研修会」の概要

2-1. 研修目的

まず第一に、比較的経験の浅いタイ人日本語教師に、日本語指導の際必要となる基礎的な知識や教授方法を与えることと、第二には、タイ国内の日本語教師の親睦を図り、今後のネットワーク作りの基礎とすることである。

2-2. 参加者の概要

参加者の募集はダイレクトメールで行い、57名の応募があったが、人数の制約からまだ教えていない者、教授経験の深い者、日本語運用力が著しく低い者を除き、44名を選考し、これを参加者の希望により、2つのコースに分けた。(A コース：4/30-5/6, B コース：5/13-5/19)

参加者の所属機関、教授歴、学習歴等は以下の通り。

参加者数：	男7名・女37名	計44名
年齢：	20代17名・30代16名・40代10名・50代1名	(平均33歳)
所属機関：	総合大学 17名 (38.6%)	中等高等学校 9名 (20.5%) ^c
	教員大学 9名 (20.5%) ^a	その他 3名 (6.8%) ^d
	高等専門 6名 (13.6%) ^b	
地位：	専任39名・非専任5名	
日本語教授歴：	一年未満 11名 (25.0%)	三年以上 20名 (45.5%)
	三年未満 13名 (29.5%)	
日本への留学経験あり：	18名 (41.0%)	
日本語国際センターの研修会への参加経験あり：	5名 (11.4%)	
日本語能力試験：	1級 3名 (6.8%)	3級 11名 (25.0%)
	2級 3名 (6.8%)	4級 3名 (6.8%)
地域別参加者：	バンコック及び近郊 29名 (65.9%)	
	東北部 7名 (15.9%)	
	北部 6名 (13.6%)	(内チェンマイ 5名)
	南部 2名 (4.6%)	

a 大学 (maha wittayalai) が大学省の管轄にあるのに対し、教員大学 (wittayalai khruu) は教育省の管轄にある。

b 職業・技術専門学校・日本の短期大学あるいは高等専門学校にあたる。学士号を取得できる学校もある。

- c 正式には、中等教育前期(3年)・後期(3年)に分かれている。前者は日本の中学校、後者は高等学校にあたる。
- d その他の機関としては、泰日経済技術振興会や元留学生協会等の公的な団体およびプライベートスクールでも日本語が教えられている。

2-3. コースの概要

1 コースは7日間(正味6日間)で、最初の4日間はバンコック日本語センターで行い、残りの3日間は場所を郊外に移して(今回はチャムビーチ)合宿形式で研修を行った。

講義は90分1コマで1日2コマ行い、その他に、バンコックでは1コマ70分の演習を1日1コマ、チャムビーチでは特別講義とまとめを1コマずつ行った。

時間数は以下の通り。

科目	時間数	科目	時間数
講義 I	90分×6コマ (540)	特別講義 A	30分×1コマ (30)
II	90分×6コマ (540)	B	70分×1コマ (70)
演習 I	70分×2コマ (140)	まとめ	60分×1コマ (60)
II	70分×2コマ (140)		
総時間数	A コース……24時間 10分 B コース……24時間 50分		

カウンターパートとしてタマサート大学のアートーン・フンタマサーン準教授、および演習の授業ではタマサート大学日本研究センターの岩崎勝一博士、特別講義ではチュラロンコン大学のピヤチャット・タデーノ助教授ならびに国際交流基金バンコック駐在員事務所池谷貞夫所長に担当していただいた。この場をかりて心からお礼を申し上げたい。

2-4. 講義内容

講義は自作テキスト「日本語教授法の基礎」に基づいて、以下の題目・内容で行った。

題目	時間数	講義内容
音声指導の方法 (講義 I・II) ①	2 コマ	日本語の音声を指導する際必要となる知識・問題点をあげ効果的な指導法について考える。 1. 音声学の基礎 2. 日本語の音素 3. モーラとシラブル 4. 母音の無声化 5. アクセント 6. 指導の方法
文字指導の方法 (講義 I・II) ②	2	ひらがな・カタカナ・漢字の指導法について考える。 1. ひらがなの指導 2. カタカナの指導 3. ローマ字による指導 4. 漢字の指導
文法指導の方法 (講義 I・II) ③	4	初級授業において指導上問題となる句型・文法事項をとりあげ、その指導法について考える。 1. イマスとアリマス 2. コソアの用法 3. 助詞の用法 4. 数詞・助数詞 5. 動詞の活用 6. V ています / V あります 7. 授受表現

作文指導の方法 (講義 I) ④	1	初級授業においてまとまった内容の日本語を書かせる場合どのような指導を行ったらいいかを考察する。 1. 初級における作文指導の目的 2. 指導上の留意点 3. 作文授業の内容
授業の実際 (講義 I) ⑤	1	より効果的な授業を行うため、授業の運営・補助教材の使い方等について考察する。 1. 授業の流れ 2. 最初の授業 3. 授業の準備 4. 視覚的技法 5. おりがみで教える 6. 歌で教える
翻訳の技法 (講義 II) ⑥	1	日タイおよびタイ日の翻訳を行う際の技法について講義、演習を行う。 1. 日本語とタイ語の語順 2. 新聞の翻訳
日本語の会話 (講義 II) ⑦	1	あいづちを例にあげ、日本人の会話の特徴について考察する。 1. あいづちのことば 2. 相手中心の論理 3. 非断定と回避の論理
まとめ	1	総復習
教材作成の方法 (演習 I)	1	日本語の教科書を作成する場合、留意すべき点を事例をあげて紹介する。
日泰語対照研究 (演習 I)	1	対照研究入門として、使役表現に関する日タイ語比較対照の演習を行う。
ビデオ教材の紹介と使い方 (演習 II)	2	「続・ヤンさんと日本の人々」を観賞し、どのように授業の中で利用していくかについて考察する。

特別講義 A 「ここに残ることば」(日本語)

特別講義 B 「日本語を教えて」(タイ語)

日本語授業におけるタイ人日本語教師の役割は、文法の導入や説明にあてられており、レベルも初級を担当する場合が多いので、講義内容も、初級日本語を教える際にこれだけは知っておかなければならないという教授上の基礎知識を整理し、問題点を考えるという形となった。

講義の①から③までは、日本人講師とタイ人講師が一組となって教えた。日本人講師は終始日本語で学習事項を解説し問題点をあげ、タイ人講師はそれをタイ語でフォローアップし、必要に応じて補助資料を配付したり、ドリルを行ったり、質問に答えたりという方式で授業を進めた。

演習では、講義でとりあげなかった問題のうち参加者の関心に沿ったものを選び、実際に問題を解き、あるいは考えるということを行った。

特別講義は、日本語教育から少し離れて、有識者の話を聞くという目的で行われた。

3. 評 価

参加者側にとって、この研修会がいかにとらえられたか。研修会終了時に行われたアンケート調査の結果を基に考察してみたい。

アンケートはタイ語で行われ、質問は以下の3項からなる。

1. あなたは今回の研修会の実施期間・時間についてどう思いますか。
2. 今回の研修会での日本語教授法の学習内容、講師の教え方はどうでしたか。
3. 次回の研修会ではどんなことをやってほしいですか。

3-1. 開催期間・時間割について

期間については、一週間以上にしてほしいという者が4名、今回は長すぎたという者が1名いた他は、概ね今回のままが(で)よいという意見であった。

合宿についてふれている者は3名で、2名は肯定的、1名は否定的であった。

時間割についても、概ね今回のままが(で)よいという意見であるが、午前に集中してほしい(3名)、もう1コマ増やしてほしい(1名)という意見もあった。

3-2. 研修内容について

内容に関する意見としては、肯定的なものとする否定的なもの双方が表れた。

(肯定的な意見)			
役に立った	32	面白かった	2
広い範囲をカバーしていた	6	講師がよかった	2
たのしかった	4	資料がよかった	1
よくわかった	2	スタッフがよかった	1
(否定的な意見)			
難しいところがあった	9	意見交換の時間がほしかった	4
もっと詳しくしてほしかった	5	具体的な導入法が聞きたかった	1
能力別にしてほしかった	5	実践の機会がほしかった	1

役に立ったという意見が大半を占め、ほぼ今回の研修会の目標は達せられたと思われるが、反面「難しいところがあった」、「もっと詳しくしてほしかった」というような意見も多く出た。ある参加者にとっては難しいところも、別の参加者にとってはやさしく、コースの内容自体が物足りなかったのではないと思われる。選考したとはいえ、レベルのばらつきは大きく、今後課題を残している。「能力別にしてほしかった」という意見もこういった状況を裏付けていよう。

「意見交換の時間がほしかった」、「具体的な導入法が聞きたかった」、「実践の機会がほしかつ

た」という意見は授業の進め方を反省する上で貴重な意見で、具体的、実践的な授業を目指したにもかかわらず、まだ至らぬ点が多かったのであろう。

いずれにせよ、一週間にわたる集中研修会は、かつて行われたことがなく、十分時間をかけることができたので、この種の研修会としてはよくまとまっていたのではないかと思う。

3-3. 研修会に望む内容

参考までに、以下にリストを添える。今回の研修内容と照らし、タイ人日本語教師が指導上どんな問題に直面しているか、またどんな点に関心をもっているかをうかがうことができる。

文法	21	テスト作成	3	模擬授業	2
教材・教具	12	発音	3	日本文化	2
教室活動	8	作文・手紙	3	聞き取り	1
教授法	7	タイ日語比較	3	日本語の知識	1
読解	6	語彙	3	(教師向け	
会話	4	応用日本語	3	日本語講座)	4

文法に対する関心は非常に高く、事前のアンケートでも指導上の困難点、教師自身の日本語力運用上の問題点の筆頭に挙げられている。特に、文法事項を実際の授業でいかに導入し、指導するかという点に高い関心を示している。

教材・教具の作成法、タスク・ゲーム・ロールプレイ等の教室活動の方法、教授法、テスト作成・評価法、模擬授業等、具体的で即実践できるものに対する関心が非常に高い。

参加者が求めているのは、アカデミックな知識ではなく、すぐに教室で使える実践的な技術・方法であり、どうしたらよりわかりやすい授業ができるかということなのである。

4. 今後の展望

以上、1991年5月に行われた、バンコック日本語センターにおける日本語教育研修会について報告してきたが、今後どのような方向で教員研修プログラムを開発していくか、若干の考察を加え、稿を閉じることとしたい。

今年度10月には、第2回日本語教育研修会を第1回目と同じ規模で行う予定であるが、「わかりやすい授業をめざして」というテーマで、より実践的で実際の授業に直接役立つ活動の数々をとりあげ、わかりやすく楽しい授業をするためにはどうすればよいのか、議論・実習をまじえて考察してゆく予定である。講義というより、ワークショップ的なものにしてゆくつもりである。

予定の講義内容は以下のとおりである。

題 目	講 義 内 容								
音声指導の方法	<p>タイ人日本語学習者の発音にみられる特徴を観察し、タイ語と日本語の音声体系を比較する。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 日本語の音素・タイ語の音素</td> <td style="width: 50%;">4. イントネーション</td> </tr> <tr> <td>2. アクセント</td> <td>5. リズム・プロソディー</td> </tr> <tr> <td>3. プロミネンス</td> <td></td> </tr> </table>	1. 日本語の音素・タイ語の音素	4. イントネーション	2. アクセント	5. リズム・プロソディー	3. プロミネンス			
1. 日本語の音素・タイ語の音素	4. イントネーション								
2. アクセント	5. リズム・プロソディー								
3. プロミネンス									
授業の実際 (1) 〔教師の役割〕	<p>学習者のまちがいを訂正するにあたっての注意点と媒介語の効果的な利用法について考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訂正の方法について 2. 媒介語の利用—タイ語で言うか日本語で言うか 3. 教師の役割 								
授業の実際 (2) 〔教室活動〕	<p>教室活動を円滑にするため、クラスの組織、ドリルの作成および使用法について考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クラスを組織する—ペアワーク・グループワーク 2. ドリルの作り方 <ol style="list-style-type: none"> (1) 機械的なドリルからコミュニケーションなドリルへ (2) ゲーム (3) ロールプレイの作成と使用 								
授業の実際 (3) 〔書き活動〕	<p>書くことに関する学習活動を紹介し、その指導法について考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 単語レベルの書き活動 2. 文レベルの書き活動 3. 段落レベルの書き活動 4. コミュニケーションとしての書き活動 5. 創作としての書き活動 								
授業の実際 (4) 〔読み活動〕	<p>「読む」とはどのようなことか、読解授業はどうあるべきかを反省し、読み活動のための教材作成および使用法を紹介する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「読む」とはどのようなことか—四つの読み方 2. 読み活動で行うこと <ol style="list-style-type: none"> (1) プリ・リーディング—読む前の作業 (2) 読んだあと 3. 読み活動のいろいろ 								
テスト・評価の方法	<p>テスト・評価の目的と方法、日頃行っているテストについて反省し、実際にテストを作成する場合の問題点を考察する。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 二つのテスト</td> <td style="width: 50%;">5. テストの実施</td> </tr> <tr> <td>2. テストで測定すること</td> <td>6. 事後処理</td> </tr> <tr> <td>3. 問題の形式</td> <td>7. 評価の方法</td> </tr> <tr> <td>4. テスト作成上の注意</td> <td>8. テスト作成の手順</td> </tr> </table>	1. 二つのテスト	5. テストの実施	2. テストで測定すること	6. 事後処理	3. 問題の形式	7. 評価の方法	4. テスト作成上の注意	8. テスト作成の手順
1. 二つのテスト	5. テストの実施								
2. テストで測定すること	6. 事後処理								
3. 問題の形式	7. 評価の方法								
4. テスト作成上の注意	8. テスト作成の手順								
日本事情	<p>日本語・日本文化に関する文献をいくつか取り上げ、日本語の表現について論ずる。</p>								
翻訳の技法	<p>日タイおよびタイ日の翻訳をする場合のポイントをあげ、実際に演習する。</p>								

ビデオ教材の使用法	ビデオ教材を実際の授業の中いかに組み込んでいくか、効果的に利用するにはどうすればよいか、などについて考察する。
-----------	---

今後、年2回の研修会と教師向け日本語講座を定着・発展させ、タイ人日本語教師の日本語指導力・運用力を高めるための教員研修プログラムを充実させてゆく予定であるが、その際、コンサルティング等を通じて吸収された問題点からフィードバックが重要になってこよう。

とかく教師が陥りやすいのは、日頃の授業がマンネリ化し、教科に関する興味も、指導に関する興味もうすれてきがちで、授業全体に活気がなくなってしまうことである。これは、教師にとっても学習者にとっても不幸なことだと言わねばならない。同僚が数名いれば、お互いに刺激しあうことも多く、相談しあうこともできようが、一人だけのところや地方で教えている人たちには、そのような機会もない。

バンコック日本語センターで行っている、日本語教育研修会と教師向け日本語講座がきっかけになって、タイ人日本語教師間のネットワークが形成され、教える楽しさを再認し日本語への興味が活性化されるような方向に進めば幸いである。

そのためにも、魅力ある講座作りをめざして教員研修のカリキュラム・シラバスの作成を急がねばならないだろう。

最後に、教員研修プログラム開発の礎石として、シラバス(案)の概略を以下に記す。

〔目標〕		
(1)	日本語教授上必要な知識を身に付ける。	
(2)	効果的な授業を行うための方法・技術を身に付ける。	
(3)	教材の作成法・使用法の基礎を身に付ける。	
(4)	日本語の知識・運用力を高める。	
〔学習項目〕		
1.	発音の指導 音声学の基礎知識 日本語の音声 タイ語の音声 発音矯正の方法	コミュニケーション インターアクション 待遇表現
2.	文字の指導 ひらがなの指導 カタカナの指導 漢字の指導	5. 聞くことの指導 聴解とは何か 聴解力を高めるために インテンシブリスニング 聴解教材の作成と使用法
3.	文法の指導 初級文型の教え方 文法事項の整理	6. 読むことの指導 読解とは何か 読む前の作業 読むための作業 読むテクニック 読解教材の作成と使用法
4.	会話の指導 談話 場面と状況	7. 書くことの指導
		単語・文・段落・文章 作文教材の作成と使用法 文語表現 待遇表現 手紙・葉書の書き方 原稿用紙の書き方
		8. 授業の実際 (1) 導入の方法 ①語彙の導入 ②文型の導入 ③例文・質問文 (2) 練習の方法 ①パタン練習 ②コミュニケーション・ドリルの作成と使用法

③タスク・ゲーム 作成と使用法	①黒板の利用	11. 評価・テスト
④ロールプレイ 作成と使用法	②略画の書き方	テストの作成
(3) クラスの組織	③絵カードの使い方	評価の方法
①ペアワーク	④視聴覚教材・器材	自己評価
②グループワーク	9. 社会・文化	コースの評価
(4) 教師の役割	社会言語学の基礎	12. 実習
①訂正の仕方	文化を教える	授業見学
②媒介語の利用	10. 授業計画	模擬授業
(5) 視覚化の方法	授業の準備	ティーム・ティーチング
	カリキュラム	
	コースデザイン	

本表作成にあたっては、以下の書を参考にした。

Doff, Adrian (1988), "Teach English: A training course for teachers," *Cambridge Teacher Training and Development*.

おわりに

われわれ日本人も含め、外国語としての日本語を教える教師の多くは、いったん現場に入り教壇に立つと、日本語あるいは日本語についての知識を学習する機会も、自らの教え方を反省し向上させる場もなくなってしまふ。自分が、いったい何のために教えているのか、こんな教え方で本当によいのだろうか、もっとよい教え方があるのではないかという疑問。あるいは、もう教えることに喜びを見出せなくなってしまった、何をどのように教えていいのかわからなくなってしまった、という経験は多くの教師が体験しているはずだ。このように、教師が指導法・指導内容に疑問をもち、一時的に興味を失せてしまい、フラストレーションがたまる傾向にあるのは、なにも日本語教師にかぎったわけではなく、タイ国にかぎったわけでもない。いつでもどこにでも存在する問題であろう。

このような、化石化された (fossilized) あるいはプラトー (plateau) の状態にある日本語教師には、現状から抜け出すためのきっかけを与え、すでにこの種の問題を乗り越えている者にはさらなる向上をめざしてもらおうべく、バンコック日本語センターでは、研修会などを通じて機会と場を提供し、協力して行きたいと考えている。

この度の研修会・日本語講座を通じ、彼らが本来持っている指導に対する熱意・向上心を感じ取ることができたのは、大きな喜びであり、次のステップへの自信につながった。

今後さらに一層彼らの要望に応えられるように、教員研修プログラムを充実させてゆきたい。

『日本語教授法の基礎』より

音声指導の方法 I

1. 音声学の基礎 (おんせいがくのきそ) Fundamentals of Phonology

音声学—一言語音 (げんごおん) を物理的 (ぶつりてき) に研究 (けんきゅう) する。Phonetics
音韻論 (おんいんろん) —ある言語内で、音をどのように区別 (くべつ) しているかを研究する。Pho-
nemics

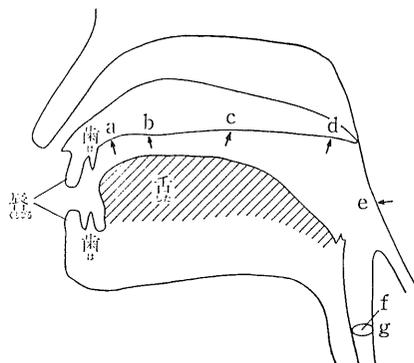
意味 (いみ) を識別 (しきべつ) するもっとも小さい単位 (たんい) を音素 (おんそ) という。音素は / /
であらわす。

例) 日本語の「ん」であらわされる音は、どのまえにあらわれるかによって、えんぴつ [m], しん
だい [n], かんこう [ŋ], せんえん [ŋ] の4つの音声のいずれかになるが、日本人はこれを1つ
の音素 /N/ と識別している。

調音点 (ちょうおんてん) —口の中のどの点をつかって発音 (はつおん) するか。

調音法 (ちょうおんほう) —どうやって発音するか。

音声器官 (おんせいきかん) の書き方



- a. 歯茎 (しけい)
- b. 硬口蓋 (こうこうがい)
- c. 軟口蓋 (なんこうがい)
- d. 口蓋垂 (こうがいすい)
- e. 咽喉 (いんこう)
- f. 声門 (せいもん)
- g. 声帯 (せいたい)

国際音声記号 (IPA: International Phonetic Alphabet)

2. 日本語の音素

イ) 母音 (ぼいん) /a, e, i, o, u/

ロ) 子音 (しいん) /p, t, k, b, d, g/, /h/, /m, n, ŋ/, /c, s, z/, /r/

ハ) 半母音 (はんぼいん) /j, w/

ニ) 特殊音素 (とくしゅおんそ)

/N/—撥音 (はつおん) 「ん」 (はねる音)

/Q/—促音 (そくおん) 「っ」 (つまる音)

/R/—長音 (ちょうおん) (のばす音)

3. モーラとシラブル mola and syllable

イ) モーラ (拍) —音を時間的に区切った単位。1つのモーラは同じ長さ。自然 (しぜん) な日本語を発音す
るうえでとてもたいせつ。とくに、特殊音素も1モーラとすることに注意 (ちゅうい)。

例) おじさん (4モーラ) おじいさん (5モーラ)

いっばい, いっかい, いったい (4モーラ)

ほんを(3モーラ) せんえん(4モーラ)

ロ) シラブル(音節)—1つ以上の単音(たんおん)

短音節(たんおんせつ) —V, CV, CSV ア カ キャ

長音節(ちょうおんせつ)—CVR, CSVR アー カー キヤー

CVN, CSVN アン カン キャン

CVQ, CSVQ アッ カッ キャッ

* がっこう 4モーラ・2シラブル

きょうしつ 4モーラ・3シラブル

4. 母音の無声化(むせい化)

声帯(せいたい)のふるえをとみなわれないが、口の形と舌の位置はもとのままで発音されること。

例) ちかい きかく /i/, /u/ が無声子音にはさまれたとき、

とくしょく また、最後の「す」でおこりやすい。

いきます きれいです

5. アクセント

イ) 強さのアクセント—強さで意味(いみ)がかわる。

例) présent—présent, objet—objéct.

ロ) 高さアクセント—高さで意味(いみ)がかわる。

例) maa màa maa máa mǎa

ṃṃ ṃṃṃ ṃṃṃ ṃṃ ṃṃṃ

日本語のアクセントは高さアクセントだが、音節内でなく単語(たんご)内で高さがかわる。(モーラの高さがかわる)

日本語アクセントの型(かた)

i) 平板型(へいばんがた)—平板式(へいばんしき)

ii) 尾高型(おだかがた)

iii) 中高型(なかだかがた)

iv) 頭高型(あたまだかがた)

} 起伏式(きふくしき)

特徴(とくちょう)

i) 1番目と2番目のモーラの高さがちがう。

ii) 高さのかわりめは1つの単語に1つ。

6. 指導の方法(しどうのほうほう)

イ) ミニマルペア minimal pair による練習(れんしゅう)

おばさん—おばあさん

びょういん—びょういん

ロ) 「つ」音の矯正(きょうせい)

i) 母音をなおす。

ii) 摩擦音を破擦音(はさつおん)になおす。

iii) ドリル

うす—うつ—うつす

つゆがつづいてつきがみえない

ハ) 「ら」音の矯正(きょうせい) だ→らのまちがい

i) 破裂音(はつれつおん)にさせる。

ii) ドリル

らくだがらくらくだんをだんだんのぼる

ニ) 特殊音素の練習

- { きってかってきてはってだして
 { きのかかったばんたかかったのかたかった
 { まっていてっていったのにまっていなかったからまたなかった
 { ばんかんでミルクのんでかんのふたをしめた
 { かんばんにおんなのこがさんにんやすんでいる
 { おとうととうさんがとおりでおおきなぞうをみた
 { こうじょうのおくじょうでこうじょうちやうがちやうれいをしようといった

ホ) 声門閉鎖(せいもんへいさ)について

モーラに注意する一方、むやみに声門閉鎖をもちいないように指導しなければならない。
 あいうえおーあ。い。う。え。お。

『日本語教授法の基礎 II』より

授業の実際 (1) (教師の役割)

授業を進める上で、教師の役割にもいろいろあるが、学習者のまちがいを直すというのも重要な教室作業の一つである。教師ならだれでもこの「訂正」という作業をしているはずだが、その方法などについてはあまり反省されたことがない。

また、教室で使うことばについても、どんな場合に日本語をつかい、どんな場合にタイ語をつかったら効果的かという議論もあまりされていない。

この講義では、訂正の方法について反省を加え、教室内での目標言語(日本語)と媒介語(タイ語)の効果的な利用について考える。

1. 訂正の方法について

(1) なにをなおすか、どのくらいなおすか、どうやってなおすか。

教師A: わたしは、授業中ひたすら学習者の話す日本語に注意を傾けています。発音、文法のまちがいに関して、気づいたものはすべてなおしています。

教師B: わたしは、あまり学習者のまちがいをなおさないようにしています。というのは、学習者の表現意欲を損ねてしまう恐れがあるからです。でも、あとでまちがいを教えてあげるようには、しています。

教師C: わたしは、その時になにを教えているのかによってちがいます。覚えなければならないものをやっている時はこまかくなおしますし、コミュニケーション力を高める練習をしている時は、あまりなおしません。

【問題】 あなたはA, B, Cのどのタイプですか。または、どの先生のようになおしたらいいと思いますか。

(2) 会話の訂正

例 1)

教師D: きのはどこへいきましたか。

学習者: きのはこえんへいきました。

教師D: どこですか。

学習者: こえんです。

教師D: こうえんですね。 こえんじゃありません。 こうえん、いいですね。

学習者: こうえん。

教師D: こうえんでなにをしましたか。

学習者: ほんをよんだり, てがみをかったりしました。それから、...

教師D: てがみをかったりしたんですか。 かいたりでしょう。 かくは第一グループ動詞で、カ行で活用しますから、 かいてになりますね。

例 2)

教師E: きのうはどこへいきましたか。

学習者: きのうはこえんへいきました。

教師E: こうえんへいったんですか。 こうえんでなにをしましたか。

学習者: ほんをよんだり, てがみをかったりしました。それから、すこしひるねをしました。

教師E: そうですか。 ソムチャイさんはほんをよんだり, てがみをかいたりしたんですね。

例 3)

教師F: きのうはどこへいきましたか。

学習者: きのうはこえんへいきました。

教師F: そうですか。 こうえんではなにをしましたか。

学習者: ほんをよんだり, てがみをかったりしました。それから、すこしひるねをしました。

教師F: どんなほんをよんだんですか。

学習者: シドニー・シェルダンのしょうせつをよみたんです。

教師F: おもしろかったですか。

学習者: はい、とつてもおもしろかったです。

教師F: (Xに)ソムチャイさんはきのうどこへいきましたか。

(Yに)ソムチャイさんはこうえんでなにをしましたか。

(Zに)ソムチャイさんのよんだほんはおもしろかったですか。

[問題] 三人の先生が直そうと思っていることはなんですか。 なおしかたはどう違いますか。 あなたならどうなおしますか。

(3) 訂正のいろいろ

イ) ジェスチャー

助詞の欠如... かれは こない おもいます。

助詞のまちがい... 貿易会社 に は たらいています。

時制... 失敗 する とき, 「すみ ません」といいます。

プロンプターとしてのジェスチャー

ロ) 板書

モーラのまちがい... いも と から も ら た, ほのよ み ま し た。

学習者の発言を板書してみんなで考える。

みんなの発言のあと代表的な間違いを板書し、考察する。

(4) 作文の訂正

「結婚したあとは仕事をやめますか。」という題で書かせた作文を添削したものを2例あげる。

例 1)

結婚したあと^はも、仕事をつづけますが、子供が~~いた~~^はあと^はやめるとも思います。
 できた

だから結婚してから、すぐ仕事をやめるのはしばらくたつてたいくつです。
 なぜなら と (なるから)

例 2)

結婚したあと^はも、仕事をつづけますが、子供が~~いた~~^はあと^はやめるとも思います。
 ようと思ひ できたら よう

~~だから~~結婚してから、すぐ仕事をやめるのはしばらくたつてたいくつです。
 と (から) (だるうと思ふから)

【問題】 例1と例2のなおしかたの違いはどこにありますか。あなたはどちらのほうがいいと思いますか
 それはなぜですか。

【問題】 次の作文を訂正してください。

武田貿易の山崎さんは、1970年入社して10年間たちましたが、

牛肉の輸入の仕事をしています。日本人の食事の好みが変わった。

魚を肉に10%傾向しました。一生けんめい仕事するので、結婚してなくて、

恋人もいないです。ところが、読書グループにはいったばかりして、

きょうよう持って、知識人になって女にもてるようになりたい。

でも、それは本当の目的ではありません。

2. 媒介語の利用—タイ語で言うか日本語で言うか

(1) 日本語を使う場合

例 1) あいさつ表現

- おはようございます。
- さようなら。

例 2) 教室内の指示表現

- レッソンの導入
- 注意喚起
- 教室内指示
- おわり

タイ語でなんと申しますか
 合つたひとは手をあげて下さい。
 もういちど。
 きょうから第3課を勉強します。
 89ページを開けて下さい。

【問題】 次のような場合日本語でなんと言いますか。

• 黒板に注意をひきつけたいとき。 _____

• テープを聞かせるとき。 _____

• 教室がさわがしいとき。 _____

• 一人ずつ答えさせたいとき。 _____

• 学習者をペアにさせたいとき。 _____

• 学習者の一人を前に出したいとき。 _____

• 授業を終えるとき。 _____

(2) タイ語を使う場合

• 文法を説明するとき。

{ これはともだちがくれた本です。

{ これはともだちにもらった本です。

の違いなどは、日本語だけでは理解が難しい。

• 新出語彙の導入

実物・絵などで導入しにくいもの。

{	政府	{	みそ	{	うれしい
	技術		とうふ		たのしい
	文化		なっとう		etc.

• 学習者がどのくらい理解できたかの確認。

• 場面や状況を設定するとき。

{ あなたはいまはなやさんにきています。さいふのなかには2せんえんあります。

{ はなやさんにねだんをきいて、はなをかってください。→タイ語で。

3. 教師の役割

イ) 正しい語彙・文型を呈示する。

ロ) 学習者を指示し、導く。

ハ) クラスを組織する。

ニ) 学習者の活動を円滑にさせる。

ホ) 学習意欲を喚起する。

ヘ) 学習者の心理的な抵抗をとりのぞく環境設定者。

ト) 学習者のカウンセラー。

【問題】 教師の役割として、他にはどんなことがありますか。

また、あなたが考える「いい先生」とは、どんな先生ですか。